

担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る「担当者のコラム」

教育研修部 佐藤 明子　SATO Akiko

「廃棄物」から学ぶこと

講習会業務に携わって、1年半が経とうとしています。少しずつ廃棄物処理の全体像が分かるようになってきました。

この仕事に携わるまで廃棄物処理とは無縁の仕事をしていた私にとって、「廃棄物」という言葉には、ほとんど馴染みがありませんでした。それが最近では、公共のゴミ箱が気になったり、廃棄物収集車を自然と目で追ったりと、かなり身近なものに感じられるようになってきました。そんな小さな変化を、何となく嬉しく感じながら日々業務に取り組んでいます。

「廃棄物」が、私の生活において違和感なく受け入れられるようになった頃、東日本大震災は起きました。3月11日、仕事中に大きな揺れを感じ、恐怖心でいっぱいになったことを、今でも鮮明に覚えています。幸い、私の身近では大きな被害はなく、安心したのも束の間、テレビに映し出される被災地の様子に愕然としました。

私が認識しはじめていた「廃棄物」の言葉ではとてもおさまりきらないほどの瓦礫、木材、雑多な漂流物…。この世のものとは思えない映像に言葉を失いました。震災から4ヶ月ほど経った頃、仕事で被災地を訪れた私の家族は、「途方に暮れる」という感覚を初めて体感できてしまうほど、すさまじい状況だったと話していました。

そして、震災から半年以上たった今。メディア報道の対象は、被災状況を伝えることから放射能問題や復興計画へと変化してきました。社会の関心も、次第に変化していきます。しかし、未だに手つかずの瓦礫が、震災当時のまま残っているところが数多くある状況は、変わらない現実です。

片付けが進まないのは、怠けているわけでも後回しにしているわけでもなく、「廃棄物処理」の難しさが、その要因のひとつなのだろうと感じます。何を、どこから、どのように片付けていけば良いのか。震災は、私に「廃棄物」をさらに考える機会を与えてくれたような気がします。

今年の夏は、震災・原発事故の影響で日本全体が節電、節電の日々でした。日廃振センターでも照明を落とし、少し薄暗い夏を過ごすこととなりました。しかし、ようやく秋を迎え、少しずつしのぎやすい日も増えてきました。これからは、今年の夏の分まで明るく、パワーを節約することなく日々の講習会業務に努め、廃棄物処理の「縁の下の力持ち」になれるよう、産廃に係る知識の習得や情報収集に、積極的に取り組んで参りたいと思います。

編集後記

本号では、コラムを埼玉大学河村教授に、連載講義を株式会社日本総合研究所副島様にご執筆いただきました。また、産廃クローズアップでは、バイオエナジー株式会社茂木様に、取材のご協力いただきました。さらに、日廃振センター国際部より、米国の電子マニフェスト導入について紹介いたしました。

IT革命により、革新的に進歩した物流管理技術は、現在、廃棄物処理の分野にも応用され、廃棄物を管理する電子マニフェストとして、世界各国で導入され始めております。日廃振センターでは、国際事業の一環として、海外の廃棄物に係る情報を調査、整理して提供するとともに、これまで培ってきた日本の廃棄物情報を海外へ発信し、各国に役立てていただく取り組みにも努力して参ります。（濱田）

本誌に関する連絡先：総務部広報室　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

【アンケートへのご協力のお願い】

日廃振センターのホームページでは、本誌のPDFファイルを掲載しています。ウェブアンケートで皆さまからのご意見等をお聞かせください。

URL http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi_desc11_3.shtml

日廃振センター情報（季刊）Vol.11 No.3　発行日：平成23年10月7日　発行人：岡澤和好
発行所：財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4 日本橋コアビル2階　TEL: 03-3668-6511　FAX: 03-3668-6512　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ウィトンズ